

循環器系疾患の専門病院 道内初の大動脈弁形成術を実施



1998年4月に循環器疾患の専門病院としてスタートし、専門医を中心としたチーム医療を実施している



- ① 地域の健康ステーション的な役割を担う。現在、入院病床99床、人工透析18床を有する
- ② 解像度が高い最新のフラットパネルの血管造影装置
- ③ 新たに導入したMDCT (64列マルチスライスCT)

1998年4月に循環器系疾患の専門病院としてスタート。「患者さまの健康な生活を支えることを目的として、患者さま中心の良質な医療の提供」を基本理念とし、専門医を中心とした高度な医療体制を誇る新札幌循環器病院。緊急対応が必要な心筋梗塞や大動脈瘤などの循環器系疾患については随時受け入れ可能で、カテーテルによる治療や、緊急手術に対応している。

循環器内科スタッフの充実により狭心症や心筋梗塞に対するカテーテル治療の症例が増え、従来行えなかったローターブレードによる高度石灰化病変に対する治療も可能になった。

2010年12月からは大動脈弁膜症に対して、東邦大学の尾崎重之教授の協力のもと、自己心膜を用いた大動脈弁形成術を道内で初めて実施。自己の組織を使うためワーファリンなどの抗凝固剤の服

用が不要となるほか、周囲の組織と連動し患者の生理的な機能を保てるという利点もある。自己心膜による大動脈弁形成術は、同病院が道内最多の実績を持っており、15年10月まで50例以上行っている。

また、胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤に対しては、通常の人工血管置換術に加え、ステントグラフトを用いた血管内治療を積極的に実施。身体への負担を極力少なくし、短期間の入院で社会復帰を可能にするよう努めている。

不整脈に対するペースメーカー治療や除細動器の植え込み、重症心不全に対する心臓同期療法も症例が増加しており、末梢血管や静脈瘤に対する治療も加えると、総手術件数は年間700例を超えている。

専従の理学療法士4人を配し、予防と社会復帰に向けた心臓リハビリテーションにも力を注いでいる。

心臓血管外科・循環器内科・腎臓内科・人工透析内科・胸部外科・リハビリテーション科

医療法人 サンブラザ

新札幌循環器病院

☎011-892-1556

札幌市厚別区厚別中央2条4丁目9-25

<http://www.sshoc.jp>

受付時間／

平日 9:00～12:00 13:30～16:30

土曜 9:00～12:00

※循環器救急のお問い合わせは24時間対応

※夜間透析あり

休診日／日曜・祝日

最寄りアクセス／

地下鉄新さっぽろ駅5番出口・JR新札幌駅・新札幌バスターミナルから徒歩約5分



理事長・院長
佐々木 孝氏

1974年札幌医科大学卒業。札幌医大外科学第2講座(胸部外科)入局。98年新札幌循環器病院院長。日本胸部外科学会認定指導医。医学博士